

平成30年度 西東京市立田無第二中学校 学校関係者評価表

学校教育目標	健康な心身と、自主独立の精神を養う。…健康	誠実公正な態度と、豊かな知性を身につける。…誠実	敬愛奉仕の精神に富んだ人間性を培う。…敬愛
---------------	-----------------------	--------------------------	-----------------------

目指す学校像(ビジョン)	「いきいきさわやか 田無二中」生徒の安心安全を保障し、生徒が明るく笑顔で学べる学校、地域の学校として地域、保護者に信頼される学校
【目指す学校像】	①健康で主体的にたくましく生きる生徒 ②心穏やかによく学ぶ生徒 ③自然や人を愛し社会に貢献できる生徒
【目指す児童・生徒像】	①教育愛に満ち、生徒の成長と発達に責任をもつ教師 ②生徒の様々な教育活動を支え励ます教師集団 ③研修に励み自身が学び続ける教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

- 生活指導・各種取組・声掛け等を繰り返す中で生徒の規範意識は高まってきている。
- 学習面では、主体的・対話的で深い学びのある学習活動を進める。また、ユニバーサルデザインの視点に立ち、個々の生徒の学習実態に合った指示や教材の工夫をする。

<努力指標> 4:教職員の評価で達成率80%以上	3:教職員の評価で達成率60%以上	2:教職員の評価で達成率40%以上	1:教職員の評価で達成率40%未満
<成果指標> 4:生徒・保護者の評価で達成率80%以上	3:生徒・保護者の評価で達成率60%以上	2:生徒・保護者の評価で達成率40%以上	1:生徒・保護者の評価で達成率40%未満
<学校関係者評価> 4:総合評価で達成率80%以上	3:総合評価で達成率60%以上	2:総合評価で達成率40%以上	1:総合評価で達成率40%未満

項目	具体的方策	学校自己評価		学校の取組及び改善策	学校関係者評価	学校関係者評価記入欄
		努力指標	成果指標			
確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びを実現させる活動を授業に取り入れるとともに、ユニバーサルデザインの視点で分かりやすく、振り返りをし易い授業を進める。 特別な支援を必要とする生徒に対し、通常学級・特別支援学級・スキップ等の連携を深めて学習機会を保障し、基礎基本の定着を図る。 	4	3	<ul style="list-style-type: none"> 全教員が主体的・対話的で深い学びを実現できるよう授業改善を行い、その実践に努めた。特に生徒自身が自分の意見や考えを発表し、表現する力を育成することを目指した。 授業内容が分かりやすいかについての生徒アンケートでは「充分あてはまる」「あてはまる」の合計が84%、保護者アンケートは77%と、昨年度より上昇した。来年度も教材等の工夫を行い、授業への関心・意欲を高めることで満足度向上を図っていく。 	3	主体的・対話的で深い学びを実現するための授業を行っていることは理解している。まだ実践している期間が短いので、今後の成果を注視していきたい。 学力調査の結果が良かったので、授業内容が分かりやすいと考えている生徒が多いのはうなずける。
	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習ノートを活用し、毎日の家庭学習を担当が確認するとともに、定期テスト前には学習計画表を作成させ、計画的な学習の振り返りに取り組ませる。 数学科・英語科では、少人数指導による指導の有効性を活用しながら学力向上を図る。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習をしているかの生徒アンケートでは「充分あてはまる」「あてはまる」の合計が昨年度の79%から87%と上昇した。定期テスト前に学習計画表を活用しているについては、昨年度の合計は74%から75%と、ほぼ同程度であった。家庭学習ノートの活用・学習習慣の定着については、年度当初により細やかな指導を行っていく。 アンケートで「充分あてはまる」「あてはまる」と答えた生徒は81%(昨年度は67%)、保護者は77%(昨年度は75%)であった。次年度も少人数指導の利点を活かし、生徒が学力が定着したと実感できるよう授業を展開していく。 	4	家庭学習の行っていると回答している数値は高いが、家庭ではそこまで学習をしているという実感はないので、親の見ていないところで学習をしているのかもしれない。 少人数授業では、授業を行うクラスによって学習内容が違ったり、定期テストで有利不利が生じないように配慮してほしい。
豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 虐待防止委員会、教育相談部会、いじめ対策委員会、生活指導部会を有効に活用し、生徒情報の共有化を図る。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 虐待防止委員会(月曜)、教育相談部会(水曜)、いじめ対策委員会(水曜)を開催した。長期休業中は、連絡ノートを活用しながら、教育相談部や教育支援コーディネーターを中心に全校体制で生徒の実態を把握するよう努めた。 	3	複数の部会を開催し、多角的に生徒の生活状況を把握しようとしていることが分かる。
	<ul style="list-style-type: none"> 「特別の教科 道徳」の先行実施に取組み、各学年で連携をとりながら計画的に授業を行った。 休み時間や給食時間などの時間を有効活用して生徒と接する機会を増やす。 生徒が毎日取り組む家庭学習ノートを活用してコミュニケーションを行う。 生徒との面談を三者面談を含めて年4回実施する。 人権尊重教育推進校の2年間の指定を受け、人権尊重教育の充実を図る。 	4	3	<ul style="list-style-type: none"> 「考える道徳」「議論する道徳」を意識した授業改善を行った。また、ゲストティーチャーを招いた授業を5回行い、全校や各学年で学ぶ機会を設けた。 自分たちの意見や悩みについて親身に応じてくれるとアンケートで答えた生徒は「充分あてはまる」「あてはまる」の合計が昨年度の73%から86%、保護者は74%から78%であった。今後も校内で誰でも気軽に相談できる体制や雰囲気づくりを確立していく。 家庭学習ノートの点検を毎日するとともに、取組の様子から生徒への声かけを行った。状況により、体調・健康等のコメントを残しコミュニケーションの手段として活用した。 三者面談2回、二者面談2回を実施し、生徒や保護者と話す機会を設定し、生徒理解に努めた。 全校朝礼の校長講話や各教科の内容で人権課題について触れることで、生徒の人権に対する意識の涵養に努めるとともに、教員の人権感覚の向上を図った。 	3	道徳は次年度からの授業や評価に注目していきたい。 塾に通っている生徒は、塾から出される課題がたくさんある中で家庭学習を行おうとするので、保護者から見て負担が多いように感じている。
体健やかな	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の体育の導入時に体づくり運動を実施し、体力向上を図る。 	4	3	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の体づくり運動は体力づくりに役立っているとアンケートで答えた生徒は「充分あてはまる」「あてはまる」の合計が92%(昨年度は90%)であり、体力テストの結果を見ても十分な成果があらわれている。運動部では、都大会や多摩大会に出場するチームも増えてきた。 	4	「体力向上のための運動」と「基礎的な運動能力を維持するための運動」については、平日頃から意識した授業が展開されているとアンケートから読みとれる。引き続き継続をお願いする。
本校の特色①	<ul style="list-style-type: none"> 各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動に交流活動を取り入れ、お互いに認め合い高め合う学習活動を計画的に実践する。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 授業では意見を言ったり話し合ったりする場面があるとアンケートで答えた生徒は「充分あてはまる」「あてはまる」の合計が95%であり、交流活動を取り入れた指導は全教科・全学級で浸透している。来年度も様々な活動の中で、他者の意見を聞いて新たな考えを導き出したり自分が出した結果の確かめをしたりする活動の機会を増やし、自己の課題を自ら発見し解決する能動型学習を取り入れていく。 	4	主体的・対話的で深い学びの実現に必要な様々な交流活動が授業内で見られる。そのことを生徒も感じ取り、授業展開にも慣れている。昨年度の要望と同じであるが、こうした取組を、授業だけでなく教育活動全般に取り入れ、生徒の主体的な活動をさらに増やしていってほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> 併設する通級指導学級の教員と生徒の情報共有をし、特別支援教育の充実を図る。 通常学級と通級指導学級の連携を強化し、特別な支援を必要とする生徒に対する指導の充実を図る。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 通級指導学級の教員が講師となった校内研究会を開催したり、通常学級のゲストティーチャーとして他者理解や通級指導学級の位置付けを学ぶ学習を実施した。生徒にとって特別支援教育の存在が身近なものとなるよう、今後も啓発活動に取り組む。 個別指導計画の作成を作成し、生徒の学力向上や自立支援を行った。校内組織と通級指導学級が柔軟な連携が図れている。次の課題として、昨年度に引き続き支援システムによる個別指導計画の共有、保護者との連携を進めていく。 	4	通常学級と通級指導学級との連携が年度ごとに進んでいる。来年度も今年度と同等以上の取組を行ってほしい。 通級指導学級が設置されていることを活かして今後も取組んでほしい。
本校の特色②	<ul style="list-style-type: none"> 全校朝読書活動を実施し、年間をとおして本に親しむ。 意見発表会・職場体験学習・校外学習などにおける事前・事後学習で、生徒が主体的に取り組む探究活動を実施する。 	4	3	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も朝学活前に時間を確保して朝読書の推進に取り組んだ。朝読書を積極的に取り組んでいるとアンケートに答えた生徒は「充分あてはまる」「あてはまる」の合計が、昨年度の75%から84%、自分のためになっていると答えた生徒は78%から81%であった。今後も朝礼や図書委員会等を活用しながら読書活動を啓発し、読書好きを増やしていく。 今年度の意見発表会も様々な深い考察から作成されたものが多く、生徒の心の成長のうえで効果的な役割を果たした。次年度も人権尊重教育推進校として、生徒の人権意識を高める行事として力を入れていく。 	4	読書推進については、読むことに抵抗を感じている生徒への対応として、様々な新着図書の紹介が図書室内や図書委員会便りでされていると聞き、安心した。楽しく・興味深く本に接する習慣づくりを進める中で朝読書を継続してもらいたい。 今年度も素晴らしい「意見発表会」を見学することができた。来年度にも期待している。
	<ul style="list-style-type: none"> 校内で「さわやか賞」を設定し、毎日コツコツと努力した生徒や奉仕の精神に富んだ生徒を表彰する。 学校外のボランティア活動に参加させ、地域への貢献を図る。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 今年度もボランティア活動に多くの生徒が参加し、地域貢献をすることができた。 昨年度取り組んだ中学生が小学校を訪問して実施したリトルティーチャー(算数の補習教室での学習補助)は、今年度は夏季休業中に3日間訪問し、多くの生徒が算数の指導補助を行った。また、芝生の谷戸小学校校庭の整備のため芝刈りを行い、校庭解放に備えることに貢献した。 	4	二中生が様々な場面でボランティアに参加してくれて大変助かっている。